

令和３年度 第１回中能登町総合教育会議 議事録

１ 日 時 令和３年１２月２日（木）
開会：午前１０時３０分 閉会：午前１１時５０分

２ 開催場所 中能登町役場 総務庁舎 ２階 大会議室

３ 出席者

（構成員）	中能登町長	宮下 為幸
	教育委員会	
	教育長	袋井 貞司
	教育長職務代理者	堀内 浩一
	委員	三浦 克欣
	委員	坂本 真弓
	委員	駒井 奈美

（構成員以外の出席者）

参事兼総務課長	高名 雅弘
参事兼土木建設課長	北野 均
学校教育課長	梅澤 博
生涯学習課長	岩田 正
総務課担当課長	竹林 明美
学校教育課担当課長	大橋 武史
学校教育課課長補佐	神保 明枝
学校教育課課長補佐	洞雞 章子
生涯学習課課長補佐	清酒 秀樹
生涯学習課課長補佐	成田 志朗
総務課課長補佐	山辺 浩久

（傍聴者） なし

４ 議 題 （１）GIGA スクールの推進について
（２）中能登プロジェクト事業（コミュニティ・スクール）
の推進について
（３）個別整備計画について

- 5 報告事項 (1) 町敬老会事業の実績及び地域敬老事業の活用事例について
 (2) 重伝建事業の進捗状況について

6 議事経過

・開 会

○高名参事

それでは、定刻となりますのでただいまから、令和3年度第1回総合教育会議を開催いたします。

初めに宮下町長が御挨拶を申し上げます。

○宮下町長

皆さんおはようございます。

本日は、令和3年度第1回中能登町総合教育会議を開催しましたところ、教育委員の皆様には何かと御多用の中、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。

また、日頃から中能登の教育振興のために御尽力をいただいておりますことに改めて御礼を申し上げたいと思います。

教育施策の方向を明確にし、共有をするために町長と教育委員会の協議、調整の場として、総合教育会議が平成27年度に設立されました。

この後、GIGAスクールの推進について、中能登プロジェクト事業のコミュニティ・スクールの推進について、また、個別整備計画についての議題について、皆様方から御意見をいただきながら、進めてまいりたいと考えております。

忌憚のない御意見を賜りますようお願いを申し上げまして、私の挨拶といたします。

本日は誠に御苦労さまです。

○高名参事

はい、それでは本日の会議の資料につきまして確認を最初にさせていただきます。

(配布資料の確認を行う)

それでは、次第にしたがいまして会議を進めてまいります。

中能登町総合教育会議設置要綱第3条の規定によりまして、会議の進行は町長が行うとありますので、これ以降の会議の進行は、宮下町長に進めていただきます。

町長よろしく申し上げます。

○宮下町長

議題(1)の「GIGAスクールの推進について」、担当課から説明をお願いします。

○梅澤学校教育課長

まず、議題（１）の GIGA スクールの推進について説明をさせていただきます。

（資料１をお願いいたします。）

中能登町立小中学校、児童生徒１人１台タブレット端末整備事業の概要について、総事業費は約１億４,751 万円で、公立学校情報機器整備費補助金を活用し、１台当たり４万 5,000 円を上限に、903 台分、4,063 万 5,000 円の補助金と、地方創生臨時交付金を活用しております。

タブレット端末は富士通製品で、児童生徒用として 1,325 台を購入し、それにタッチペンと家庭用充電器の購入をしております。

運用方法ですが、小学校１年生時に新規登録をし、それを卒業するまでの６年間にわたって利用します。

そして、中学校１年生時に新たに登録をし、それを卒業するまでの３年間にわたって利用をいたします。

OS ですが、Windows を採用しておりますが、石川県及び県内の七尾市と志賀町を除く市町につきましては、Chromebook を採用しております。

これには、使用できるアプリケーションや事業アプリ等が豊富であること、社会に出ると Windows が大半を占めるため操作に困らない、学校で現在使用している校務支援パソコンと同じ操作性のため先生方の負担軽減にもなり、Windows を採用したと聞いております。

続きまして、ソフトにつきましては、事業支援ソフト、フィルタリングソフト、端末管理用ツール、個別学習支援サービスを入れております。

補償対応につきましては、タブレット端末に保険の加入はしておりませんので、故障した場合は、予備機より代替機を再設定のうえ設置し、故障機はその後に修理をしております。

購入から１年間は補償期間中でありますので無償扱いですが、今月で保証期間が切れますので、それ以降については有償修理となります。

保管の管理につきましては、原則、毎朝開錠して夕方に施錠をしており、充電方法につきましては、保管庫内で夜間に輪番充電をしております。

家庭への持ち帰りにつきましては、Wi-Fi 環境の接続確認を小学校３年生から中学校３年生までを７月に実施し、小学校１年、２年生は、９月から１０月にかけて実施をしております。

なお、Wi-Fi 環境が整っていない家庭につきましては、学校に登校してもらい使用することを想定しております。

また、Windows を採用したことで、データを端末に保存し持ち帰ることも出来ますが、インターネット利用に必要な Teams などの利用は難しいとのことでもあります。2 学期以降は、各学校や学年ごとで月 1 回は持ち帰りをするように依頼しております。今後の課題ではありますが、東京都の町田市で発生した、タブレット端末による人権問題等に対応するため、下記の事項について留意しております。

Teams などのチャット機能を児童生徒同士では出来ないように制御をしております。タブレット端末にログインするときのパスワードを初期設定のものから順次、個別のパスワードに設定変更を依頼しておりましたが、自宅でのパスワード変更が上手くいかない児童が多数いることが分かり、その原因がマイクロソフトへ 30 日以上接続がないためということが考えられました。

また、学校のネットワークでパスワードを変更すると、設定変更はできるが入力画面に反映されないということも分かりました。

これにつきましては、プロキシサーバーが原因であると業者から聞いております。

現在、中能登町は 2 校で 1 つのネット回線を利用しております。

中能登中学校と鹿西小学校で 1 つ、鳥屋小学校と鹿島小学校で 1 つの回線を利用しております。

現在、2 校で 1 つのネット回線を利用していますので、このプロキシサーバーの設置が不可欠であり、パスワードの変更や動画配信等で一部制限がされたりすることがあるということから、パスワードの変更に支障をきたしているところでもあります。

また、一斉にネット接続すると一部接続が出来ず、授業に支障が出るということから、まず、1 校につき 1 回線にするネットワークの改修が急務であると考えられます。

タブレット端末の家庭でのトラブル等が多いことから、GIGA スクール支援員の配置が必要であると考えられます。

以上、よろしくお願いいたします。

○宮下町長

只今、学校教育課から GIGA スクールの推進について説明がありました。

この件について、御質問、御意見等はございますか。

○梅澤学校教育課長

中能登町の小中学校のインターネットの環境ではありますが、各家庭にアンケートを実施したところ、約 9 割がインターネットに加入し、Wi-Fi 接続ができる状況となっております。

家庭にインターネットの環境がない児童生徒につきましては、オンライン授業になりま

したら、学校に登校するというのを昨年度決めております。

中には、Wi-Fi 環境でのルーターを整備すればどうかというお話もいただいておりますが、まずその前に、ネット環境の無いお宅に Wi-Fi ルーターを貸出ししても、それを活用することが出来ませんので、インターネットの環境をつくっていただくということが、その過程ですることと思っております。

○宮下町長

皆さん今の説明分かりましたか。こういう Wi-Fi 環境の問題。

○梅澤学校教育課長

私も余り詳しくないですが、今、親御さんのほとんどがスマホを持っておられて、近くにあればテザリング機能で、インターネットができることは聞いているんですが、それを仕事場に持って行かれたら出来ないということから、そこは考えるところであるかなと思います。

○宮下町長

皆さん御理解されたと思いますので、次に進みます。

次に議題 2、「中能登プロジェクト事業、コミュニティ・スクールの推進について」、担当課から資料の説明をお願いします。

○梅澤学校教育課長

議題の（2）、「中能登プロジェクト事業、コミュニティ・スクールの推進について」、説明をさせていただきます。

（資料 2 をお願いいたします。）

コミュニティ・スクールとは、中能登町の教育大綱に基づいて、地域とともにある学校づくりを目指すため、学校、家庭、地域が一緒に手を取り合い、子どもの学びを応援する仕組みで、それぞれの学校の良さや地域の現状に応じた活動にするため、「話し合いの場（学校運営協議会）」や、「地域の皆さんの活動の場」を設け、交流や触れ合いを大切に思いやりを兼ね備えた子どもを育むことであります。

要するに、地域の人々が、意見を出し合って学校を運営していくということであります。

コミュニティ・スクールの仕組みについて、学校運営協議会の委員には、校長先生の意見を反映し、保護者代表や、地域住民と中能登プロジェクト推進会議の各部会長、学校応援ボランティア、コーディネーターなどになっていただいているのが主流であります。

校長先生は、学校運営協議会に学校運営の基本的、基本方針を説明し、承認をしてもら

います。

そして、学校運営、教育活動にも説明をし、学校運営協議会は、教育委員会や校長先生に意見を述べるができるということです。

教育委員会が、学校や地域の実情に応じて、学校運営協議会の設置をいたします。

今後の課題であります。中能登プロジェクト推進会議と地域学校協働本部の実施体制の整備では、中能登プロジェクト推進会議における4つの部会、1つは、心豊かな文化・学習部会、2つ目は、地域スポーツ・部活動部会、3つ目は、地域ふれあい部会、4つ目は、PTA 連合会部会という4つの部会の実施体制を整えるということです。

そして、地域住民等の学校支援ボランティアの活動体制を整え、地域学校協働活動に持っていく。また、学校と地域をつなぐ、コーディネーター役の配置をすることです。

次に、学校運営協議会の設置につきましては、学校と地域がともに目指す子ども像の明確化、どういう子どもたちを育てて行けばよいかということです。

設置単位の検討、中学校区一つとか、各小中学校に設置するとかということ、コミュニティ・スクールに係る研修の実施などが考えられます。

今後のスケジュールといたしまして、今年度は、現状把握ということで、各学校にアンケートを実施し、学校側と意見交換を持つ。

令和4年度は、コミュニティ・スクール導入に向けた準備のための人員を確保する。

コーディネーターの人材確保。

令和5年度は、学校運営協議会のモデル校を設置、令和6年度から7年度にかけて、全校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールを実施するというスケジュールであります。

いずれにしても、教育大綱に基づきまして、令和7年度までに実施ということになっております。

○宮下町長

只今、「中能登プロジェクト事業の推進について」説明がありました。

この件について、御質問・御意見等ございませんか。

○三浦委員

中能登プロジェクト推進会議に部会が4つありまして、とっても4つとも大事なのですが、とてもスタンダードな感じがして、中能登町らしさ、オリジナルをどうやってこれからつくっていくかっていうところにあるかと思うのです。地域スポーツ部活動部会、特に中学校の部活動の支援というのは、中学校の陸上部がとっても今、学校と選手と子どもたち、保護者、民間のコーチがうまく機能していて、その成績云々ではないです

が、成績につながっているのではないかと考えています。この中能登町に来て、中能登中学校を見られるとね、設備がすごい良くて、私立中学校ですかというふうに、言われることがあります。やっぱり、その次は人、コーチを充実させていくっていうのがこれから大事なのかなというふうに思っていて、成績が全てではないです。

それを踏まえた上で、独自のシステムをつくっていったらいいかなというふうに考えています。

やっぱり真の一流のアスリートという人たちは、とっても人間的にもすばらしい。

トレーナーの鐺木さんともお話していたら、アスリートだというふうに思うので、そういう本当のアスリートを育てていく環境をつくっていったらいいかなと考えていますので、ぜひ何かそういう柱の一つにしていけたらいいなと考えています。

○梅澤学校教育課長

三浦委員のおっしゃるとおりで、今ここに書いてあります、地域スポーツ・部活動部会ということで、町の体育協会、スポーツ推進員との連携によりコーチを派遣していただくような形、あるいは、今、中学校の休日の部活動に移行するというような形で、今現在でも、陸上協会なり、ほかの競技でも、体育協会に加盟している、団体の指導者が、各競技のところに入ったりして、教えているかと思っています。

今、特に陸上はすごい優秀な成績を収めております。

今後、やはり体育協会やスポーツ推進委員などと話をしながら、特色ある中能登町のコミュニティ・スクールに向けて、話し合いをしていかなければならないかと思っています。

○堀内委員

中学校で部活の指導という観点からすると、今、先生方の働き方改革ということも併せて考えていかなければならないと思います。

平日ばかりではなく、土日に大会があったり、そういう場合に、先生方も自分の子どももいて、学校のことでもう精一杯で振り回されて、自分の子どもの面倒も見られないという、そういう実態もあるのではないかな。

そういう中で、このコミュニティ・スクールで、民間の方の力をお借りして、部活動を活性化していくというのは非常にいいことだと。

実際その成果として今言われたような、陸上競技ですね、長距離中心とした。

それから弓道ですか。弓道の指導者も民間の方で、長年にわたって指導されて、その成果がいろいろといい形であらわれていると思います。

また先生方についても、顧問を任されて、全く経験のない部活動やるっていう、そういう場合もあるのではないかなと思うんですね。

そういうときに、民間の適任者の方をお願いして、部活等を活性化していくということが必要ではないかと思います。

それから小中学校のことですけど、私が住んでいる町内会では、小学校の児童が、女の子1名だけです。

私の子どもは平成の初期のほうに生まれて、まず、子ども会にたくさん子どもがいて、いろんな地域の行事に出て、地域を知ることが出来たんですけど、今1人ですから、全く地域とかけ離れたような、日々の生活を送っているのではないかなと思います。私の町内に住んでいる町内会に限らず、これだけ、児童数、生徒数が減ってくれば、起きているのではないかと。

自分が生まれ育った町がどういう町だったかわからないまま卒業してしまうようなことも、極端に言えば出てくるのではないかなと思うんですね。

特に小学校、中学校というのは、地域との結びつきが非常に強い時代で、高校行けば、進学校行けばもう毎日勉強、さらに大学行けば、県外に行ってしまうと、地域とのつながりが本当になくなってしまうということになるものですから、このコミュニティ・スクールを通して、地域を大切にしたい、してもらいたいと思うんです。

中能登町は多くの古墳、文化財があるわけで、以前も、小学校の時の遠足に必ず、町内の古墳などへ出かけてもらうことが大事だというようなことを言われてきたので、このこともあわせて、続けていただきたいなと思います。

かつて、中能登町は繊維で栄えた町ですが、今の時代全く、そういったものは、特定の企業しかないという形で、私が若い頃には、向こう3軒両隣、親も繊維で働き、祖母も繊維で働き、カチャカチャ、カチャカチャと24時間、家族での繊維の操業がされていたわけなんですけど、過去の中能登町の歴史を知るとか、先生方には中々わからない面があって、そういう地域に住む先輩たちが教えていくことが必要ではないかなと思います。是非、年度計画を定めて、実行していただきたいと思っています。

○宮下町長

この件に関してここに、地域ふれあい部会ってあるわね。

その中で今、例えば、堀内委員が言われたように、子育ての支援の世代間の継承というものがあると思う。

3世代のつながりの中で今、昔のこと言われたけど、そういうつながりっていうことを、どういったらいいのか。

子育ての知恵やはね、そういう世代間の継承というのもやっていくべきだと思う。

ただそのときには、幼稚園、小学校、中学校も含めてこのいろんな、コミュニティの場

を設ける必要があるんじゃないかなということも思うので、今、堀内委員に、昔の繊維のことも言われたし、良いことやったなと思って、この世代間の継承というのが多分必要だと思うので、考えたほうが良いと私は思います。

○梅澤学校教育課長

町長、堀内委員が言われたように、今、コロナ禍で、学校の行事等に、地域の方々がちょっと入り込めないというような状況もありますし、また今の郷土芸能の獅子舞等で、子どもから大人までがそこに携わる、そういうのも今、コロナ禍でストップの状態で、これが本当にうまく、お祭りとかも進められるようになれば、本当にコミュニティ・スクールになっていくと思っております。

今、町長が言われたように、検討していきたいと思います。

○宮下町長

教育長から何か、このことについて。

○袋井教育長

今、コミュニティ・スクールに関わって4つの部会があるんですが、国としても県としても、少子化で先がすごく不安やと。

地区でも、子ども会が成立しないとか、獅子舞も子どもで出来ないとか、そういうことが現実として見えてきているんで、その辺をもう一遍、地域で立て直して、やってほしいっていうのはこのコミュニティ・スクールの一つの狙いでないかなと。

地域スポーツ部活動部会のほうでも、外部指導者に入ってもらっている。

国も強力にこれを進めています。

外部指導者が入ってもらって、きちっと、組織が活動出来ている競技と、競技団体の中にそういう力というか、組織が確立してない競技もあるわけです。

そういうところも含めて、町として、体協として、バックアップをしてやっていくと。そして、先生方の働き方改革っていう面も含めてですね、先生方の学校における子どもとの触れ合いの機会をしっかりと持つということで、このコミュニティ・スクールは、全国的に進めて欲しいっていうふうに言われています。

今、まさにそれが必要な時で、今、テコ入れしなければ、この後は、もろく崩れていくんじゃないかなということなんで、タイミングとしては、大変いいタイミングで、この提起がされたのではないかなと私は思っています。

皆さんの協力を、本当にお願いをしたい、地域の皆さんの協力をお願いしたい。

「地域の学校、地域の子ども」という感覚を大切にしていきたいなと思います。

○宮下町長

今、皆さんから御意見をいただきました。

中能登プロジェクト事業、コミュニティ・スクールの推進につきましては、今後のスケジュールに沿って、さらに執行部で協議を進めてまいりたいと思います。

次に、議題3、個別整備計画について、担当課から、資料の説明をお願いします。

○岩田生涯学習課長

資料3をお願いいたします。

個別整備計画についてです。

今年3月に策定をいたしました生涯学習施設の個別計画につきましては、資料3のとおりでありますが、詳細な御説明につきましては、時間の都合上、省略させていただきます。

4ページ下段をお願いいたします。

現在、生涯学習課では、社会教育施設が4施設、社会体育施設が5ページになりますが、18施設、このほか、図書館や公園、その他施設等で13施設、という管理を行っている状況であります。

今回は、この中で、社会体育施設について、協議をしたいと思ひ案件とさせていただきました。

この個別整備計画での課題といたしましては、6ページの2段目に記載してありますが、行財政改革の課題である施設の統廃合については、中能登町公共施設等整備計画の基本方針において、久江体育センター、スポーツセンターろくせい内の弓道場、金丸体育館、鹿西武道館を統合し、鹿島相撲場を廃止し、テニスコート鹿島を解体するとの方針を出していることから、今後の施設の改修、または廃止を明確化する必要があると考えております。

次、資料15ページをお願いいたします。

中段になりますが、施設の廃止の一覧、スケジュールとなっております。

令和3年では、鹿島運動場の廃止ということで、現在使用しておりません。

令和4年には鹿西武道館、5年は金丸体育館、6年は鹿島相撲場、テニスコート鹿島、7年には久江体育センターという計画になっております。

まず、来年度の鹿西武道館については、現在、鹿西剣道教室と剣道協会が使用しておりますが、建築は昭和50年で築46年となります。

耐震化されておられませんので、教育委員会としましては、子どもたちや利用者の安全性を考え、使用を中止したいという考えであります。

また、金丸体育館につきましては、現在、体操協会が常設会場として使用しております

が、こちらは、昭和 50 年の建築で、平成 16 年に耐震化されておりますが、来年で築 50 年となりますことから、建物としての安全性に不安があり、使用を中止すべきか判断しかねております。

いずれの施設も利用者がいることから、他の施設への利用ができるよういろいろな調整が必要となります。

このことから、今後の施設利用等につきまして、町長部局と協議したいと考え、今回、この議題として上げさせていただきました。よろしくお願いいたします。

○宮下町長

ただいま、担当課から、個別整備計画について説明がありました。

この件について御質問、御意見等ございますか。

○堀内委員

明らかに耐震を満たしていない施設については、取壊しなり廃止は致し方ないと思うのですが、15 ページの説明にありました 6 の金丸体育館ですね。

金丸地区は、かねまる交流館という木造の集会場があるんですけど、万が一のそういう、地震災害に対しての避難場所っていうふうになると、鹿西高校ないし行政庁舎が 1 番近い、避難場所になるのかなと思うんですよね。

そこへ一気にそういう木造建築、自宅が倒壊するとか危ない状態になって、人が集まることになるんですけど、金丸地区は、もうほかに鉄筋、鉄骨のそういう、木造以外の堅牢な施設というのはない状況ですね。

体育施設だけの考えではなくて、そういう地域バランスのとれた形での、一時的な避難施設としての、考え方からするとちょっと心配なところを感じられます。

お年寄りが増える中で、金丸地区から能登部地区まで移動して避難するとなると、なかなか大変な面があるのではないかと、そういう面での心配があります。

○宮下町長

まだ他にございませんか。それではないようですので次に進みます。

今、堀内教育委員から御意見をいただきました。

個別整備計画につきましては、さらに、執行部で協議を進めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

次に報告事項 1、町敬老会事業の実績及び地域敬老事業の活用について、担当課から説明をお願いします。

○清酒補佐

それでは、資料は、資料 4、報告事項（1）と右肩の上に書いてあるものでご覧になっ

ていただきたいと思います。

中能登町の敬老会事業の実績及び地域敬老事業の活用事例についてということで、私から報告をさせていただきます。

まず、町の敬老会事業の実績についてであります。令和2年度については、コロナウィルスの感染拡大防止により中止とさせていただいておりますので、前々年度の令和元年度の実績で説明をさせていただきます。

75歳以上の対象者、参加者が634名であり、出席率が17.8%でありました。

このほかには主催者、来賓者、地区、協力関係者など総勢900名が一堂に会する大イベントということになっておりました。

総事業費としては、555万3,689円でありまして、特に、会場設営経費とバスの借り上げ費が大半を占めております。実績については以上です。

続きまして令和3年度からの新規事業として行っています、地域敬老事業について説明をいたします。

この事業は、コロナ禍であることから、一堂に会する敬老会の実施が厳しいと判断したことから、代わりになる開催方法として発案した事業であり、地区の公民館活動の一環ともなりまた、高齢者の見守りも兼ね、また防災減災の一助になればと考えた事業であります。

11月末現在で、現在、19団体が補助事業を活用されております。

こちらに活用事例にもありますように、コロナ禍でありましたので、多くの団体が見守りを兼ねた記念品の配布が主な内容となっております。

今年度新たな試みとして実施した補助事業でしたが、実績としては中間になるんですけども、既に対象となった人数が676名となっております。町が行った敬老会事業の参加者634名をもう既に上回っていることから、ある程度の成果があったものと考えております。

予算の関係についても、前々年度の対比であります。6割程度に圧縮出来たということも大きな改善となっております。

まだ年度途中でもありますので、来春の実施も期待されることから、この今12月に行われる区長会議のほうで、この活用事例等を説明させていただきまして、未実施の地区等でも開催されるよう、また再度周知を図っていきたいと思っております。

○宮下町長

ただいま担当課から敬老事業についての説明がありました。

この件について、質問、御意見等ありますか。

私から聞きたいんですけど、金丸地区で、堀内委員のところだと思うんですけど、金丸地区はもうたくさん地域の町内会でやってきてるわね。

これについてどういう感触でしたか。

○堀内委員

正直なところ、あーよかったっていうような声は直接、言いにくいのか、届いてないんですけど、あんまり、主催者というか、町内会長の立場としては、これまでそういう小さな単位で、お年寄り、高齢者を大切にするっていう催物がなかったものですから、それで、そういう観点からすれば、やった感っていうのがあるんですけど、今後、1回終わって、アンケートをとってみようかなという思いは持っています。

是非、いい予算だったと思いますんで、令和4年度も継続していただければなというふうに思っております。

○宮下町長

その他ございませんか。それではないようですので次進みます。

次に報告事項2、重伝建事業の進捗状況について、担当から説明をお願いいたします。

○成田補佐

報告事項2の説明資料をお願いいたします。

伝建地区指定に向けた取組スケジュールについてでございます。

平成28年度の準備委員会の立ち上げから、文化庁の事前協議、視察を受けまして、平成30年度から伝統的建造物群保存対策調査の補助事業を受けまして、調査委員会、町史や、郷土資料の収集整備、町並みの成り立ち景観調査、対象となる家屋調査を行っております。

事業は平成2年度で終了しておりまして、調査報告書の刊行をしております。

その調査報告書の中で、能登部地区、今の伝建地区の対象地区ですが、その町並みがどのようなものであるか、特色、また他の伝統的建造物群保存対策地区とどういった特色の違いがあるのかを報告書の中で説明しております。

その中で中能登町能登部地区におきまして、「アズマダチ」といった特色のある家屋のほかに、金沢のひがし茶屋街でも見られる「マチヤ」、「アズマダチ」以前に見られる「ヒライリヒラヤ」といった3種類に代表される家屋に彩られた町並みが、眉丈山の麓の西往来、今の町道R-1号線になりますが、それを中心に2.5キロにわたって続いて残されていることが特色として報告されております。

今後の予定でございますが、現在、地区の報告を兼ねた説明会を予定しております。

それに基づきまして地区の意識の醸成と、また、どういったところがメリット、デメリット

ットになるのかというのを理解していただいて能登部地区の特色、価値がどういうものか報告させていただいて、伝建制度そのものの制度を理解していただき、選定へ向けての協力をお願いしたいと思っております。

その後でございますが、令和3年、4年度3月には保存条例の制定を行い、国の助言を受けながら、保存審議会において、最終的な地区の範囲の選定、どこまでの地区にするのか、全体として計画していくのかというのを取りまとめて検討していただく保存計画というものをつくりまして、そのあと、保存地区の決定を文化庁に報告、そのあとに、最終的には、国のほうで選定をしていただくというふうな流れになっております。

○宮下町長

ただいま、重伝建についての説明がありました。

この件について御質問、御意見等はございませんか。

○堀内委員

「アズマダチ」づくり家屋を中心とした、重伝建指定っていうのは、ほかの市町村で何か、指定に向けた動きとかっていうのは聞いてらっしゃいますか。

それとも、中能登だけがこの「アズマダチ」づくりの唯一の申請になっているのか。

○成田補佐

「アズマダチ」をメインとしたっていう選定の理由は余り見かけたことないんですけども、今の五箇山とか今の、そもそもが、単独で成立してる「アズマダチ」っていうのは存在していますので、ただそれを全体の町並みにしてという、もうそれも複雑にいろいろな建て方があるという形式は、全国でもないというふうに調査官のほうには、前の前の調査になりますけども、聞いております。

○宮下町長

私が議会のときに、今から、4年前に、京都の丹後半島に、与謝野町というところあるんやね。あそこは結局、丹後ちりめんで有名なところだけど、その町の町並みがよく中能登の古いたたずまいの、今の重伝建地区の選定するところとよく似とる。

だからそこはやっぱり話聞いとったら、これ、結構時間かかるとるわね。

これ6年目ぐらいで、その地区に住んどるもの感じとしては、ぜひ早くなんか進めていただきたいなということも思う。この、丹後ちりめんはやっぱり全く一緒な、建ち方の建ち物やったわいね。

それが、結局今丹後邸みたいのがあるわけや。

丹後邸も町の指定の文化財になっとるね。

ここへみんなお客さんや観光客が来てはみたり、そして、一つ変わっとったらびっくり

したのはね、丹後ちりなもんで、わざわざそのとおりに、機屋さんをつくったるげん、1件だけ。

それで丹後ちりもやっておりますよという、織機10台ぐらい入ったかな、これジャガードっていう特殊な機械ねんけど、それで結局そういう織物染色をしとるところも見られますよっていう、やっぱそういう繊維を染色しとる町やってん。

だから、今の無形文化財の町の文化財に指定されているもの、言うてみたら丹後邸みたいなもんやね。そこに、コンサートしたり、その昔のたたずまいの中で結婚式をするということでやっとなんと言ったね。

だから、そこも15年ぐらいかかったと、選定もらうまで。

だから、長い月日をかけてかって、やっともらったということだったけど、時間がかかるんやなっていうことは感じて、議会のときも行って見てきた。

長野の戸隠も重伝建の町ねんちゃね。

それは、4年間で、審査に当たったというもんで、何でそういう違いがあるのかなっていうことが聞きたいんやけど、戸隠にしても与謝野町にしても神社仏閣はいっぱいある。

そういうのが入って、その町の祭礼とかそういうのももちろんやっとなるんやろうけど、中能登とよく似とるなというのは与謝野町で、戸隠神社というのは、もうちょっと違うような感覚だったけど、そのような、何で戸隠が何で4年くらいで選定されたのか。

それでうちの町は6年目。与謝野町は15年ぐらいかかったわいね。

何かこの違いというか、その進め方が悪いのか、その辺、どういう感じになっとなるか、説明難しい？

○成田補佐

はい、説明させていただきます。

1番直近で、多分1番早かったのが、今、石川県の輪島にある黒島というところが、震災を受けた直後に、たしか1年と何か月で震災の直後にもう選定を受けて、それは今の地震の関係もありまして、復旧も兼ねた上で、早くしたいということで、申請全部含めて早く対応したという事例がございます。

ほかに、今の戸隠とかもそうですけども、実際、地区の方々の、まず熱意、その気持ちのまず整ってないと、逆に申請の了承が得られないと。国は6割とは言ってますけども多分7割、下手すれば8割ぐらいの同意が得られないと、地区自体の申請が出来ないというのが1番足かせになってるかと思う。

ただ、今の戸隠のほうはある程度その人口なりその住んでる方の意識が、もともと観光

地でもありますので高いと思われます。中能登の能登部におきましては、もともと住んでいる自分の家でございますので、なかなかそれを勝手に自分の好きに出来ないという話になると、またちょっと、進め方としては難くなるのかなというのもありますので、ある程度地区のほうに話を持っていき方を考えていかないと、町から頼まれてからやるわとなると、なかなか難しいというふうに国のほうからも聞いております。

○宮下町長

ということは、地域住民が誇りを持って、推し進めていけば早く進むということですね。そういうことについて地域住民に話聞いたりしたけど、何か所か行って、皆なしてやらんかいやというような声は何も起こらないんだच्छゅうことや。

○成田補佐

説明会なり、この調査の調査委員会で調査に入ったときは来ていただいておりますけれども、さすがに全部住んでらっしゃる方が皆さんいらしてただける訳ではないので、そういった話を広めていくという段階では、またちょっと今の報告書できて、こういう価値があるというのをまた知らせた上で、同意なり取っていきたいなと思っております。

○宮下町長

はい、わかりました。

その他にありませんか。

○三浦委員

今のお話で、僕は教育委員会の何年か前に岡崎、東海道の宿場町みたいなところ行って、1キロぐらいのところに集まತ್ತるがいね。中能登町は点在しとるがいね。やっぱりどっか集中して何か、重点地区の重点的なところって、そういうのあるがけ。スローツーリズム的にも一つね、そこを訪れたらとても「アズマダチ」の町並みが楽しめて、町長がおっしゃったように、そういう伝統文化が味わえて、そういうところって何かあるんですか？

○成田補佐

さきほど町長がおっしゃられた与謝野町も、その密度的にはそんなに固まತ್ತるようなところではなかったと思います。

そういうところも選定されてるところもありますので、ただ、今の能登部地区においては、能登部下の能登比咩神社前とか、能登部上においても成宗寺の下の界限とか固まತ್ತるところは何か所かあるので、そこを重点的にポイントとして押さえて、それを含めて申請しているという地区はほかにもございます。ただ今後、調査が入ってから、家屋も壊されとる方もおいでますので、そういったことも含めて説明としていきたいと思い

ます。

○宮下町長

そのほかありますか。

それでは今話出たようなことについて、また、執行部として協議をしていきたいと思えます。

それでは提出した案件は以上となりますが、せっかくの機会ですので教育委員の皆さんで、教育全般について、御質問、御意見等はございませんか。

○堀内委員

GIGA スクールのパソコンの配置については、コロナ禍の一種の副産物として一気に全国的に予算づけされて進んだという、経緯があるわけですが、パソコンもタブレットもそう寿命の長いものではないんで、いつかは Windows の更新とか、本体の能力がさらにアップされたものにする必要もあるんじゃないかということで、10月に県内の教育委員の研究大会がありまして、教育委員の方、教育長の方は、今、国がこういうふうに配布予算を投じてくれたけど、次また一斉に更新するそういう予算が必要になってくるといえるので、ぜひ更新のときにも国の補助があるように、今から文科省のほうへ、各自治体、いろんな町村会、町長会、市長会などを通して予算要求を行っていただきたいというふうに思っております。

皆さん、県内の教育委員さん、教育長さん、もう次のことがやっぱり心配されてました。

○宮下町長

その他何かありますか。

○坂本委員

私は感謝ということで。今日のお話とは少しズレてしまうんですが、日頃から子どもさんの安全のために、町で防犯カメラを設置していただいたり、地域の方々に見守り隊や、それから交通安全などをしていただいたことにとてもありがたく感じております。またこのコロナ禍で、学校の先生方が大変な中でさらに、環境を整えるという面においてもとても負担が心配されておりましたが、先日、それを助けてくださるような支援の方々が入ってくださっているということをお聞きしまして、町の支援というか協力というものはすごくありがたく感じられたましたので、今後とも子どもたちのためによりしくお願いしたいと思えます。ありがとうございます。

○宮下町長

その他にございませんか。

○駒井委員

中能登プロジェクト事業のコミュニティ・スクール、これからなんですけども、町内の3小学校があるので、それぞれの小学校の特色を生かした活動とかも大事にしつつ、同じ活動を同じ学年でするということもしていただければなと思います。

私には、高校生になった子が2人おるんですが、上の子は、例えば、雨の宮行った。でも、下の子は行ってなかったよとか、そういうのがあると、下の子がちょっとかわいそうかなと思ったりしたので、是非、町の史跡もたくさんありますし、中学校に上がって同じクラスになったときに、「自分も行った!」というような話で盛り上がるんじゃないかなと思うので、三つの小学校の横の連携もとれるような活動で、コミュニティ・スクールができあがっていくといいなと思います。お願いします。

○宮下町長

どうもありがとうございました。

○高名参事

はい、ありがとうございました。

それでは以上をもちまして本日の会議を結ばさせていただきます。

今日はお疲れさまでした。ありがとうございました。